

令和5年度 関東地区教育研究所連盟  
第1回委員会・総会・研究協議会（茨城大会）

開催要項



主催 関東地区教育研究所連盟  
後援 全国教育研究所連盟  
期日 令和5年5月11日（木）、12日（金）

茨城県教育研修センター

## 目次

1	第1回委員会・総会・研究協議会（茨城大会）開催要項	1
2	研究協議会（茨城大会）日程	2
3	開会行事	3
4	基調講演	4
5	各教育センター（研究所）からの報告	
	報告1 長野県総合教育センター	5
	報告2 茨城県教育研修センター	6
	報告3 茨城県教育研修センター	7
6	研究協議会	
	A 管理運営部会	
	研究協議会1	8
	研究協議会2	9
	B 研究協議会	
	発表1 埼玉県立総合教育センター	10
	発表2 茨城県教育研修センター	11
7	講評	12
8	閉会行事	13
9	アンケート	13

## Z o o m接続情報

第2日：5月12日（金） 研究協議会（茨城大会）

### 1日を通して使用するミーティング

開会行事、基調講演、各教育センター（研究所）からの報告、A管理運営部会、講評、閉会行事  
A管理運営部会にご参加の方は、1日を通して下記ミーティングでご参加いただけます。

<https://us02web.zoom.us/j/81414775779?pwd=TVkrUEl5VDRpdUNyRjJlYjI6bExCZz09>

ミーティングID: 814 1477 5779

パスコード: 857225

### B研究協議会（13：30～15：15）でのみ使用するミーティング

B研究協議会にご参加の方は、その時間のみ下記ミーティングに切り替えてご参加ください。

<https://us02web.zoom.us/j/89581939700?pwd=a2FJVnVrN0xJeSsvQnM3VWJhL0ZKdz09>

ミーティングID: 895 8193 9700

パスコード: 503099

令和5年度 関東地区教育研究所連盟  
第1回委員会・総会・研究協議会（茨城大会） 開催要項

- 1 主 催 関東地区教育研究所連盟
- 2 後 援 全国教育研究所連盟
- 3 担当機関 第1回委員会・総会 長野県総合教育センター  
研究協議会（茨城大会） 茨城県教育研修センター
- 4 期 日 第1日：令和5年5月11日（木） 第1回委員会・総会  
第2日：令和5年5月12日（金） 研究協議会（茨城大会）
- 5 開催方法 Web会議システム（Zoom）によるオンライン開催
- 6 日 程 第1日：令和5年5月11日（木） 第1回委員会・総会  
※ 第1日の資料及びZoom接続情報は、長野県総合教育センターより別途連絡いたします。

時間	内容
10:40～	受付（接続確認）
11:00～11:30	第1回委員会
11:30～12:40	休憩
12:40～	受付（接続確認）
13:00～13:50	総会

- 第2日：令和5年5月12日（金） 研究協議会（茨城大会）  
※ 第2日の詳細は、次ページ「日程」をご参照ください。

令和5年度 関東地区教育研究所連盟 研究協議会（茨城大会） 日程

1 期 日 第2日：令和5年5月12日（金）

2 開催方法 Web会議システム（Zoom）によるオンライン開催

3 日 程

(1) 接 続 8：40～ 9：00

(2) 諸 連 絡 9：00～ 9：05

(3) 開会行事 9：05～ 9：20

挨拶 関東地区教育研究所連盟委員長 長野県総合教育センター所長  
 全国教育研究所連盟委員長 国立教育政策研究所所長  
 関東地区教育研究所連盟常任委員 茨城県教育研修センター所長

(4) 基調講演 9：20～10：50

講 師	株式会社ソニー・グローバルエデュケーション 取締役会長 礒津 政明 様
演 題	2040教育のミライ -新しい時代の教育に求められること-

(5) 休 憩 10：50～11：00

(6) 各教育センター（研究所）からの報告 11：00～12：30

No.	予定時間	テーマ及び発表機関
1	11：00 ～ 11：25	「教師のICT活用指導力の向上」につなげるための学校マネジメント ～「チーム学校」による協働的な学びへの支援のあり方～ 長野県総合教育センター
2	11：30 ～ 11：55	SDGs達成に向けた教育に関する研修の充実 ～「つながる・深まる・広がる」研修を通して～ 茨城県教育研修センター
3	12：00 ～ 12：25	特別な教育的支援を必要とする児童生徒の道德教育の在り方 茨城県教育研修センター

(7) 休 憩 12：30～13：30

(8) 研究協議会 13：30～15：15

分科会	研究協議題、テーマ及び発表機関
A 管理運営部会	1 新しい時代の学校教育に求められること
	2 「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について
B 研究協議会	特別支援学校生徒に対する農業分野への就労支援に関する調査研究 埼玉県立総合教育センター
	キャリア教育の視点を踏まえた特別活動の工夫改善 茨城県教育研修センター

(9) 休 憩 15：15～15：25

(10) 講 評 15：25～16：05

国立教育政策研究所教育課程研究センター 副部長 西野 真由美 様  
 国立教育政策研究所生涯学習政策研究部 総括研究官 福本 徹 様

(11) 閉会行事 16：05～16：20





## 各教育センター（研究所）からの報告

報告Ⅰ 長野県総合教育センター

5月12日（金） 11:00～11:25（発表20分、質疑応答5分）

「教師のICT活用指導力の向上」につなげるための学校マネジメント  
～「チーム学校」による協働的な学びへの支援のあり方～  
長野県総合教育センター 専門主事 上條 大樹

児童生徒の資質・能力の育成に向けて、ICTを最大限に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実により、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげるとともに、カリキュラム・マネジメントの取組を一層進めるために、各校園では様々な取組が進んでいる。ICTを効果的に活用することで、児童生徒の充実した学びや教職員の負担軽減につながる実践も見られるようになってきている。

一方、GIGAスクール構想の実施により、教育現場では児童生徒への一人一台端末の導入が進められたが、教員のICT活用状況には、学校あるいは個人によって大きな差があり、教員一人一人の悩みも多岐にわたることがアンケート等から見えてきた。そうした状況を改善するにあたり、当センターでは、「教師のICT活用指導力の向上」に直接働きかける何かしらのコンテンツを開発するというスタンスではなく、学校全体の組織力、教員同士のつながりの強化に焦点を当てて取り組んでいる。

学校教育目標や教職員が日頃大事にしていることを実現したり、情報共有や相互協力がよりよく機能することで「チーム学校」が実現したりするために、ICT活用の可能性を加味しながら、その方法を全職員で考える場が充実するよう、支援の方向を探ってきている。諸課題の解決のために、ICT（クラウド）を活用することが効果的であることを実感したり、これまで実現したくてもできなかったことを可能にする活用方法に視野を広げたりできるような研修講座を新たに構築している。

研修講座開設に向け、センター所員で行ったワークショップの内容も紹介しながら、本センターで進めているICT活用指導力の向上に向けた取組の様子について報告する。

SDGs達成に向けた教育に関する研修の充実  
～「つながる・深まる・広がる」研修を通して～  
茨城県教育研修センター 指導主事 篠崎 智典

持続可能な開発目標(SDGs)は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されている2030年を期限とする開発目標である。「誰一人取り残さない(no one left behind)」社会の実現を目指し、先進国も含めて国際社会全体で取り組むこととされており、政府組織のみならず社会のあらゆる主体が積極的な役割を果たすことが期待されている。教育の分野でも、ユネスコを中心とした持続可能な開発のための教育(ESD)の推進が図られているが、持続可能な社会の創り手をいかに育てていくか、現代の教育に投げかけられた大きな課題である。

このような社会の要請を受け、当センターでは、持続可能な社会の創り手を育成するために必要な、教師の資質と指導力の向上を目的として、令和3年度より「持続可能な社会を創る!SDGs研修講座」、令和4年度より「SDGsオンライン・スタディー」を開設した。この2つの研修は、①外部機関との連携による「つながる」、②受講者の問いや気づき、対話を重視した「深まる」、③研修の内容や成果を広く共有する「広がる」の三つの柱でデザインされている。研修の実施に際して、SDGsが地球全体を対象とした目標であることから、海外を含む多くの外部機関との調整が課題であったが、ICTの効果的な活用や独立行政法人教職員支援機構(NITs)とのコラボ研修事業により、円滑に調整を進めることができた。

受講者アンケートの結果から、「つながる・深まる」研修によって、目標とする教師の資質と指導力の向上について一定の成果が見られた。また、「広がる」研修によって、今後も研修成果の持続や拡散が期待できる。一方で、連携する外部機関先の選定やより効果的な研修方法の構想など、研修の一層の充実に向けて課題も見られる。今後も、持続可能な社会の創り手を育成するSDGs達成に向けた教育に関する研修の充実を図っていきたい。



特別な教育的支援を必要とする児童生徒の道徳教育の在り方  
茨城県教育研修センター 指導主事 菅間 健一

小・中学校で通常の学級に在籍している特別な教育的支援を必要とする児童生徒や、特別支援学級に在籍している児童生徒及び特別支援学校の児童生徒に対して、学習上又は生活上の困難さや発達の段階など個々の違いはあるが、一人の人間として自らの人生を他者と共によりよく生きるために必要な道徳教育の充実は、障害の有無に関わらず求められている。しかし、教材理解の難しさや言葉でのやりとりの難しさ、状況に応じて求められる善悪の判断の難しさなどがある児童生徒に対し、どのように道徳科の授業を実践していくかについて、具体的に形にすることは簡単ではない。障害等による経験不足や、自己肯定感の低下が見られる児童生徒が、道徳科の授業の際に、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させたり、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めたりするためには、児童生徒の学習上の困難さや道徳科を実施する上での課題を明確にした上で、実態に応じた学習指導の多様な展開をすることが不可欠である。

本研究は、小学校、中学校、特別支援学校から計8人の研究協力員を委嘱し、千葉大学細川かおり教授を助言者として、令和3年4月から令和5年3月を研究期間として実施した。8回の研究協議会と並行して行われた研究協力員による授業実践においては、児童生徒の実態や道徳科の指導においての課題に応じたテーマを掲げて授業づくりを行った。その児童生徒の実態に応じた学習指導の多様な展開について、指導方法や指導形態の工夫を踏まえた実践事例集として、「特別な教育的支援を必要とする児童生徒のための道徳教育はじめてガイドブック」にまとめた。

道徳科における学習指導の多様な展開をまとめたこの資料が、特別支援教育に携わり、道徳科の指導に悩んでいる全ての教員にとって、解決の手がかりになるものであり、道徳科の指導を行う際に大いに活用できるものではないかと考える。

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

## 研究協議会（A 管理運営部会）

研究協議題 I

5月12日（金） 13:30～14:20（基調発表、研究協議）

新しい時代の学校教育に求められること

研究協議題2

5月12日（金） 14：25～15：15（基調発表、研究協議）

「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について











## 茨城県教育研修センター

〒309-1722 茨城県笠間市平町1410  
TEL : 0296-78-3629 FAX : 0296-78-2122  
URL : <https://www.center.ibk.ed.jp/>